

川崎北部地域の現状(まとめと論点)

基本的事項	<p><入院患者推計></p> <ul style="list-style-type: none"> 人口は2010年の82万人から、2025年には88万人、2040年には87万人。65歳以上の高齢者は2015年比で2025年は1.20倍、2040年は1.68倍に増加。75歳以上は2015年比で2025年は1.53倍、2040年は1.91倍。 患者数は、2025年には2015年比1.29倍、2040年は1.60倍に増加。65歳以上、75歳以上の患者は増加、65歳未満の患者は減少。 疾患別：循環器、呼吸器の増加率が高い。 	<p><要介護者推計></p> <ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の要支援・要介護者数は、2025年には、2015年比1.58倍・2017年比1.46倍の76,155人と推計
	<p><病床の状況(平成29年度病床機能報告)></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度と比較して、病床数(回答数)は概ね同じであり、病床機能別の傾向は大きな変動はない。 病床の病床利用率は4機能とも平均的には高い。高度急性期・急性期は、病棟によりばらつきがある。 	

入院基本料	<p><一般病床、7:1・10:1></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己完結率は53.85%。川崎南部に18.70%流出。流出超過。 7:1、10:1のレセプト出現比は全国平均より低い。 特定機能一般入院、精神科急性期治療、認知症治療の入院レセプトの出現比が高い。 	<p><地域包括ケア病棟></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己完結率は42.83%。横浜北部に33.45%流出。流出超過。 レセプト出現比は全国平均より低い。 	<p><回復期リハ病棟等></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己完結率は52.18%。横浜北部に33.45%流出。流出超過。 回復期リハ、13:1、15:1のレセプト出現比は全国平均より低い。 	<p><療養病床></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己完結率は45.26%。東京都に27.45%流出。流出超過。 療養病床基本料のレセプト出現比は全国平均より低い。
-------	---	---	---	--

救急医療	<p><救急医療></p> <ul style="list-style-type: none"> 59.61%の患者が二次救急を圏域内で完結。川崎南部へ18.28%流出している。流出超過。 夜間休日救急搬送(外来)を除き、救急医療関連のレセプト出現比は全国平均を下回る。
------	---

疾患別の地域特性	<p><がん></p> <ul style="list-style-type: none"> 2025年入院患者数は全体的に増加。最も実数が多いのは肺がん がん入院の自圏域での完結率は最も高い大腸がん63.9%、最も低い肺がん56.37%。流出超過。 化学療法(入院・外来)、放射線治療(入院・外来)の自圏域での完結率は約60% 手術関係では乳がんに係るレセプト出現比が比較的高い。 がん診療連携体制のレセプトの出現比が低い。 	<p><急性心筋梗塞></p> <ul style="list-style-type: none"> 入院の自圏域での完結率は63.97%。流出超過。 概ね全国平均と同程度であるが、狭心症、虚血性心疾患のカテーテル治療や血管手術に関するレセプト出現比が低い。 	<p><脳卒中></p> <ul style="list-style-type: none"> 入院の自圏域での完結率は46.17%~57.81%。流出超過。 くも膜下出血の一部手術を除き、脳卒中関連のレセプト出現比は全国平均を下回る。
----------	--	---	--

在宅医療等	<p><在宅医療等></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設支援がかなり高いほか、患者における他職種間カンファレンス、訪問診療、ターミナルケア、看取り等のレセプト出現比は高い。 退院時カンファレンス、ケアマネジャーとの連携、在宅療養中の患者受入れ等のレセプト出現比は低い。
-------	--

<p>【課題・論点】</p> <p>○地域における役割分担の進め方、医療機能の過不足について</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院医療の自己完結率はいずれも概ね50%と低く、また、2025年の必要病床数と平成29年7月1日時点の病床機能報告上の病床数の差からも、回復期及び慢性期機能を中心とした病床の確保策の検討が必要か。 二次救急の自己完結率は概ね60%で、他医療圏へ流出しており、レセプト出現比も低いことから、救急医療の確保を検討することが必要か。 <p>○医療機関と、在宅医療や介護資源との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療等の需要増に伴い、在宅医や在宅医療を支える人材を確保・養成するために、どのような取組が必要か。 入退院の円滑な調整や介護との連携確保に向けて、どのような取組が必要か。
--

川崎南部地域の現状(まとめと論点)

基本的事項	<p><入院患者推計></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口は2010年の58万人から、2025年には60万人、2040年には59万人。65歳以上の高齢者は2015年比で2025年は1.08倍、2040年は1.43倍に増加。75歳以上は2015年比で2025年は1.32倍、2040年は1.46倍。 ・患者数は、2025年には2015年比1.17倍、2040年は1.35倍に増加。65歳以上、75歳以上の患者は増加、65歳未満の患者は減少。 ・疾患別：循環器、呼吸器の増加率が高い。 	<p><要介護者推計></p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の要支援・要介護者数は、2025年には、2015年比1.58倍・2017年比1.46倍の76,155人と推計
	<p><病床の状況（平成29年度病床機能報告）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度と比較して、<u>病床数（回答数）は概ね同じであり、回復期と報告された病床数が微増しているが、病床機能別の傾向は大きな変動はない。</u> ・病床の病床利用率は4機能とも平均的には高い。高度急性期・急性期は、病棟によりばらつきがある。 	

入院基本料	<p><一般病床、7:1・10:1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は86.60%。流入超過。 ・7:1、10:1のレセプト出現比は全国平均より高い。 ・集中治療室、ハイケアユニット等の、高度急性期と緩和ケアの入院レセプトの出現比が高い。 	<p><地域包括ケア病棟></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は80.79%。流入超過。 ・レセプト出現比は全国平均より低い。 	<p><回復期リハ病棟等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は62.14%。東京都に17.23%流出。流出超過。 ・回復期リハ、13:1、15:1のレセプト出現比は全国平均より低い。 	<p><療養病床></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は44.99%。横浜北部に16.15%流出。流出超過。 ・療養病床基本料のレセプト出現比は全国平均より低い。
--------------	---	--	---	--

救急医療	<p><救急医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・90.84%の患者が二次救急を圏域内で完結。流入超過。 ・救急搬送（外来）を除き、<u>救急医療関連のレセプト出現比は全国平均を上回る。</u>
-------------	---

疾患別の地域特性	<p><がん></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年入院患者数：全体的に増加する。最も実数が多いのは肺がん ・がん入院の自圏域での完結率は最も高い胃がんで83.57%、最も低い乳がんで73.38%。流入超過。 ・化学療法（入院・外来）の自圏域での完結率は約70%、放射線治療は入院が約90%で外来は約80% ・手術関係のレセプト出現比は概ね全国平均を上回る。 ・緩和ケア関連のレセプトの出現比は高く、がん診療連携体制は、入院は高いが外来は低い。 	<p><急性心筋梗塞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の自圏域での完結率は83.74%。流入超過。 ・概ね全国平均と同程度であるが、狭心症、虚血性心疾患のカテーテル治療や血管手術に関するレセプト出現比が低い。 	<p><脳卒中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の自圏域での完結率は63.37%～71.09%。くも膜下出血を除き、流出超過。 ・脳卒中に対するリハビリテーションを除き、<u>脳卒中関連のレセプト出現比は全国平均を上回る。</u>
-----------------	---	--	---

在宅医療等	<p><在宅医療等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院時カンファレンスや患者における他職種間カンファレンス、訪問診療、ターミナルケアや看取り、在宅療養中の緊急入院受入等のレセプト出現比が高く、<u>在宅と入院の連携が比較的良好であることが伺える。</u>
--------------	---

【課題・論点】	<p>○地域における役割分担の進め方、医療機能の過不足について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院医療の自己完結率は急性期は80%を超えており高い割合となっているものの、回復期は60%、慢性期は50%弱と低くなっている。また、2025年の必要病床数と平成29年7月1日時点の病床機能報告上の病床数の差からも、回復期及び慢性期機能を中心とした病床の確保策の検討が必要か。 <p>○医療機関と、在宅医療や介護資源との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療等の需要増に伴い、在宅医や在宅医療を支える人材を確保・養成するために、どのような取組が必要か。 ・入退院の円滑な調整や介護との連携のさらなる強化に向けて、どのような取組が必要か。
----------------	--